

《原 著》

急性期脳虚血病変の ^{18}F -FDG PET 所見の検討

梗塞巣周囲に認められた高集積巣について

那須 政司* 畑 隆志** 中嶋 徹*** 鈴木 豊****

要旨〔目的〕急性期脳梗塞患者に ^{18}F -FDG PET 検査を施行し、その臨床的有用性について検討を加えた。〔方法〕急性期脳虚血患者 24 例に ^{18}F -FDG PET 定性検査を行い、その PET 所見を CT、MRI 所見と視覚的に比較検討した。〔結果〕集積変化が認められない正常集積群 4 例、急性期 MRI に示された梗塞巣に対応した低集積を 20 例（低集積群）に認めた。低集積群の中に梗塞周囲に明らかな高集積を示したもの（周辺高集積群）が 7 例認められ、心原性塞栓や出血性梗塞を示した例で多く認められた。〔結論〕高集積の原因は局所における糖利用の亢進と考えられ、その機序としては従来言われていた嫌気性解糖の亢進に加えて、虚血によって遊離された興奮性アミノ酸 (Excito-toxic amino acids) の関与も疑われた。そのほかに macrophage やグリア細胞の増生等による変化も否定できず、今後の検討が必要と思われた。

(核医学 39: 103-110, 2002)